

# 一般質問通告書一覧

平成29年度新城市女性議会  
平成29年9月28日

新城市

## 平成29年度新城市女性議会一般質問通告者順序表

9月28日（木）午後1時～

- 1 伊藤 紀子 議員（通告時間15分）
  - ・ 知的障がいへの理解啓発活動について
- 2 金田 雅子 議員（通告時間15分）
  - ・ 発達障がい児の思春期に向けて
- 3 伊藤 真由美 議員（通告時間15分）
  - ・ 市内での開業のチャンス作り（チャレンジショップ）
- 4 原田 彩千子 議員（通告時間15分）
  - ・ 自信を持って生きられる居場所づくり
- 5 星野 朱実 議員（通告時間15分）
  - ・ 公共交通について
- 6 渥美 千春 議員（通告時間15分）
  - ・ 中学生における日本伝統文化、継承課題の学習について
- 7 山本 いづみ 議員（通告時間15分）
  - ・ 共育に関わる地域活動について
- 8 森 智子 議員（通告時間15分）
  - ・ よりよい新城市になるために

# 女性議会一般質問通告書

氏名 伊藤 紀子

テーマ	知的障がいへの理解啓発活動について
現状・課題 提案事項	<p>私は、早産により身体・知的の重複障がいを持つこととなった息子を21年間育ててきました。</p> <p>新城市の障がい福祉は、障がい者福祉サービス事業所や行政機関との連携が取られており、また現場で直接支援に従事する方々の熱意もあり、多様化・複雑化するニーズに応えながら大きく成長してきました。その水準は他の自治体と比べても高いものであると思います。</p> <p>私たち親は、いま障がいを持つ人達のためにも、そして将来において障がいを持つこととなる人達のためにも、これまでと同様に、障がい者の権利や要望を主張していくことも必要であると思いますが、最近では、それと同じくらい障がいを理解してもらう努力が必要だと考えるようになりました。</p> <p>障害者差別解消法などの法律ができただけでは、安心して生活していけない現実や社会の現状を私たち親も認識し、当事者だからこそ伝えられることを伝えることで、誰もが安心して住むことができる地域社会の一部分を創ることができると思います。</p> <p>そのためにも、決して理解の押し付けにならないよう注意しながら障がいの理解啓発活動を進めていきたいと考えています。</p> <p>そこで、知的障がいの理解啓発活動について質問を致します。</p>
質 問	<p>(1) 新城市では、現在、どのような知的障がいの理解啓発活動がおこなわれていますか。</p> <p>(2) 当事者、支援団体・事業所、行政機関などが協働し、それぞれの立場から意見を出し合い、楽しく、分かりやすく、創意に溢れた「新城版啓発活動」を創り上げることができればと考えていますが、市としての考えは如何でしょうか。</p> <p>(3) 新城市のお出かけ講座に、私達当事者（親と障がいを持つ本人）も市の職員と一緒に地域や小・中学校への働きかけをしていける、聴く側でなく伝える側としての市民参加型の講座を作ってもらうことは可能でしょうか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 金田 雅子

テーマ	発達障がい児の思春期に向けて
現状・課題 提案事項	<p>私は発達障がいを持つ息子2人の子育てをしています。</p> <p>発達障がいは「コミュニケーションの障害」と最近よくテレビなどで言われるのですが、私の息子達も学校でお友達とのトラブルがよくありました。上の子は発語が非常に遅かったので新城市民病院の言語訓練に2才頃からお世話になりました。言語訓練とは、発音の練習ではなく、言葉を使った他人とのやり取りや意思疎通、すなわちコミュニケーションをその子の発達に合わせて個別に練習するものです。この言語訓練が小学校低学年で終了となり、その後に継続してコミュニケーションの練習をする場がない事に気がつきました。</p> <p>下の息子は発語も早く、言語訓練に通うこともなかったのですが、小学生になってからその場の空気が読めず、お友達とけんかになったり、意思疎通が上手くできず嫌な思いをしていることがたびたびありました。</p> <p>小学校高学年から思春期にかけての時期は、お友達とのコミュニケーションの取り方が難しい時期です。よりコミュニケーション能力が求められる時に、「お友達とのやり取り」が苦手な発達障がいの子ども達が学べる場が新城市にはありません。</p> <p>発達障がいの子どもを持つ親の会の「スマイル」に來ている現在子育て中のお母さんたちも、小学校高学年になっても学べる場所が欲しいという意見がよく出ます。</p> <p>私の息子達は、大変な時期は過ぎましたが、現在発達障がいを持つ小さなお子さんたちが、小学校高学年から思春期になっても「お友達とのやり取り」をしっかりと学ぶことができ、将来社会で自立していける大人になって欲しいと願います。</p> <p>そして、「お友達とのやり取り」をしっかりと学ぶことができることで、大人になってから意思疎通が上手くできないことで社会で失敗したり、怒られたりすることが少なくなったり、引きこもりになってしまう人を減らすことができると思います。</p>
質 問	<p>(1) 今現在、知的の遅れのない発達障がいの人を持つ小学校高学年から高校卒業までの子供を取り巻く現状はどういったものでしょうか。</p> <p>(2) 言語訓練が小学校低学年で終了してしまうのは、どうしてですか。</p> <p>(3) 新城市として、今後、小学校高学年以降の発達障がいを持つ子どもや大人へのサポートを充実させる計画などはありますか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 伊藤 真由美

テーマ	市内での開業のチャンス作り（チャレンジショップ）
現状・課題 提案事項	<p>私は、今年度、新城市めざせ明日のまちづくり事業補助金の制度、コミュニティービジネス部門の団体で補助金をいただきました。趣味や特技を活かして活動をしたり、これから開業を目指す女性で「しんしろ結いの市」というイベントを開催しています。</p> <p>まだ始まったばかりですが、市内を中心に活動している女性の出店や市民のみなさんにイベントを楽しんでいただいています。出店者さんは、私を含め、一時的なイベントだけの収入だけではなく、これから実際に市内で開業、仕事として商売を始めたい方々もいらっしゃいます。</p> <p>しかし、商売を始めたいが経験も少なく、市内で開業しても、現状、日常の集客など問題点もいろいろあります。最初から独立店舗で始めることが困難です。</p> <p>そこで、全国各地で実施されている「チャレンジショップ」を行政で導入することはできないかと提案します。</p> <p>「チャレンジショップ」とは、地域コミュニティの拠点とし賑わいを創出できる場所を作り、家賃や管理費などを一定期間無償や一部補助をし、市内での独立開業までの道筋のサポートを受けることのできる取組みです。</p> <p>独立店舗の力だけではなくチャレンジショップ内で協力体制を作り、集中した魅力的な集合店舗を運営し実践的な訓練を積みながら独立開業を目指します。</p>
質 問	<p>(1) 金銭的なサポート 中心市街地に、空き店舗や使われていない建物を利用して家賃や管理費などを低額で店舗を貸し出す形での金銭的な補助はできませんか。</p> <p>(2) 場所のサポート 廃校などの利用等いろいろ制度がありますが、中心市街地での、今後、そのような街の賑わいを目的とした計画はありますか。場所を検討する予定はありますか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 原田 彩千子

テーマ	自信を持って生きられる居場所づくり
現状・課題 提案事項	<p>『子どもたち それぞれの目線で それぞれの「自立」を目指して』</p> <p>もし、自分の大切な子どもが、一人で悩み苦しんだ末に「学校へ行きたくない」と告白したら、みなさんはどうしますか？</p> <p>私の次男は、中学1年生の秋、突然に、本当に突然にそう言い出しました。「どうして？」と聞くしか言葉が見つからないほど驚きました。だって、その前日の夜まで、何もかもがいつもどおりだったのです。</p> <p>通り過ぎた今なら、あの時の次男も自分も愛せるのに、その最中ではそう思うことはできず、私にとってとても苦しいものでした。</p> <p>「迷惑かけてごめん…」と涙を流す息子に、何が何でも「学校へ行きなさい」とは言えず、次男の心が壊れないようにしなければ、しかし甘やかすことになってしまわないか、答えは見つかりません。</p> <p>「学校に行かなきゃいけない。でも行けない。」と葛藤と自責を繰り返す次男を目の当たりにし、このままでは、次男の将来はどうなってしまうのか。次男だけではなく、家族全員を辛く大きな不安が襲います。</p> <p>不登校や引きこもりは、その子どもの責任にしてしまったり、その家族だけの問題としてしまうことは、相談などをする機会を奪い、社会的な孤立を招き、解決を一層遅らせることとなります。</p> <p>一人の母親として、新城市が社会的な孤立に陥らさせることのない地域社会であってほしく、以下の質問をします。</p>
質 問	<p>(1) 私は、次男に「行きたくない」と言われた日から1週間後に、中学校の先生方に相談し、アドバイスをいただきながら、少しずつ次男が学校に戻ることができました。</p> <p>今、市内には、同じ苦しみの中にいる子どもが何人もいると聞きますが、市や学校でどのようなサポートに取り組んでいますか。</p> <p>(2) 市内には若い力がたくさんあります。若者議会などで同世代の苦しんでいる仲間のために考え、力を与えることができると思うのですが、そのような考えはありませんか。</p> <p>(3) 私たちは、事実とは違う心ない噂や、いろんな言葉で傷ついてきました。もっと大きく、もっとゆったりと、それぞれのペースで、それぞれを認めてあげられる周囲の環境や場所を作ることについてどう考えますか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 星野 朱実

テーマ	公共交通について
現状・課題 提案事項	<p>私は、鳳来南部地域自治区に住んでいます。 生活していく上で、自家用車を持っている場合は困ることは感じません。しかし、自動車運転免許証を持っていない人や、自家用車を所有していない人にとって、買い物に行ったり、病院へ通うという移動手段に悩まされます。そんな時、公共交通は、生活に必要な存在だと思います。</p> <p>しかし、現在の公共交通であるSバスに現状をみると、1日の運行本数や、目的地に行くまでの乗り継ぎなどの利便性や、路線などから利用しづらい点があるのではと感じます。</p> <p>具体的にいうと、自宅から市民病院へ行こうとすると、長篠山吉田線に乗り、本長篠で田口新城線に乗り換えて市民病院へ行くのにだいたい1時間ほどかかります。1日5本運行のうち、2本はスムーズですが、2本は乗り継ぎに1時間以上待たなくてはいけないという実態です。</p> <p>視点を変えて、本長篠方面ではなく、吉川方面だと距離的に近いので、そちらの路線を増やすことはできないのかなと思うこともあります。</p> <p>私自身、現在困ってはいなくても、10年、20年後ここで暮らして行くことを考えると、運転免許証を返納した時など、切実な問題になっていくと感じます。</p>
質 問	<p>(1) 今年度、作手地区をモデル地区とし、公共交通の体制作りを進めているということで、具体的にどう進められているかを伺います。</p> <p>(2) 現在のSバス路線を増やすことは可能でしょうか。</p> <p>(3) 高齢者で運転免許証を返納した人に、交通についての特典をつけることはできないのでしょうか。</p>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 渥美 千春

テーマ	中学生における日本伝統文化、継承課題の学習について
現状・課題 提案事項	<p>私は、新城に移り住んで9年経ちます。新城に来てすぐ、着物の着付けを習い始めました。現在は、師範講師の資格を取得し、舟着で開校しております。自身が着付けに関わるようになって日々感じる事は、つい半世紀前まで、日常着として着られていた着物が、現在では、ほとんどの方が自分で着ることはなく、関心のない方もいらっしゃいます。児童の中には、ちょう結びができない子がいるのが現状です。しかしながら、新城では、日本舞踊や、お茶、お華を指導したり、習ったりと、和の文化継承に携わっている方も多数いらっしゃいます。和の文化に欠く事のできない着付けや、着物文化の学習を、小中学生の頃より取り入れる事が新城市の特性を伸ばしていく1つのカテゴリーになるのではないかと考えております。</p> <p>和装教育は、24年度から中学生の教科書に取り入れられ、着付けの体験学習を導入する学校も増えているそうです。</p> <p>また、NPO法人和装教育国民推進会議という団体では、各都道府県に支部を開設し、推薦状を持った講師が学校に招かれ、ゆかたの着方や、きもの読本（教本）をもちいて、着物文化の歴史や、TPO、礼儀作法などの指導を行っています。愛知県支部、豊橋の中学校でも開催されたとのこと。</p> <p>私も今後、推薦状を取得し、指導や普及に努めていきたいと思っております。</p>
質 問	<p>(1) 新城市では、このような和装教育への取り組みに関してどのようにお考えですか。</p> <p>(2) 今後、以下のことが検討される可能性はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中学校での、ゆかたの着装体験授業</li><li>・ 授業をする指導講師の派遣要請</li><li>・ 教材用ゆかたや「きもの読本」の学校準備</li></ul>

# 女性議会一般質問通告書

氏名 山本 いづみ

テーマ	共育に関する地域活動について
現状・課題  提案事項	<p>私が暮らす八名地域では、八名地域がより暮らしやすく、住民が生きがいを持ち、いつまでも住み続けたいと思える地域になることを願い、多くの住民が主体的に地域活動に取り組んでいます。</p> <p>今回私は、八名地域での住民の取り組みについて、みなさんに知っていただきたく発言させていただきます。主に私が取り組んでいる共育に関わる活動について、紹介させていただきます。</p> <p>昨年度、八名小学校では、休日に学校開放をして、地域住民を講師に招き絵画教室や、寄せ植え教室などを開催しました。多くの親子がいろいろな体験をし、楽しむことができました。昨年度、八名小学校が主体となっていたこれらの休日開放を、今年度地域が中心となって運営できるように、地域住民で「八名地区共育推進委員会」を立ち上げました。各活動への参加対象も八名地区全体としました。このことにより、子ども達はもちろん、地域のみなさんが活動を共にし、共に学び、見守り、育つ「共育」がより一層充実したものになったと考えられます。</p> <p>もう一点、地域の活動を紹介させていただきます。今年3月末に、八名地域で食料品や、生活用品を取り扱っていた店舗が来店客数の減少により閉店しました。地域住民の交流の場でもあった店舗の閉店に危機感を覚えた私たちは、地域に賑わいを取戻したいという強い思いから、閉店後の店舗跡地で朝市を立ち上げました。朝市には地域の農家さんの野菜や花、手作りのパン、手芸品などが出品されます。朝市は売ること、買うことだけが目的ではなく、地域住民の世代間の交流を図り、地域を活性化し、高齢者の生きがいを創り出すという共育の取り組みにも通じています。将来的には、地域住民の集うこの場所で、住民の趣味などを活かすことができる生きがいを持てる活動もできればと考えています。</p> <p>ほんの一部ですが、八名地域の地域活動について紹介させていただきました。</p> <p>八名地域での共育の活動に関わり、次のことについて伺いたいと思います。</p>

質 問	<p>(1) 今紹介した八名地区での取り組みは、現在市が考えている共育の取り組みに合致しているのでしょうか。市の推進する共育の考え方を教えてください。</p> <p>(2) 共育を推進している新城市は、八名地域の共育に関する地域活動をどのように受け止められますか。</p> <p>(3) 私たちは、今の取り組みをもっと地域に広げていき、自分たちの手で可能な限り続けていこうと思っていますが、この考えをもっと強固なものにするために、市からの支援が必要になる時が来るかもしれません。その時に、私たちの取り組みに対する市からの支援はなにかありますか。</p>
-----	--

# 女性議会一般質問通告書

氏名 森 智子

テーマ	よりよい新城市になるために
現状・課題 提案事項	<p>少子化、高齢化に伴い、人口減少が非常に切実な不安となっています。</p> <p>私は、13年前に豊橋から嫁ぎ、作手で夫とその両親と酪農を営んでいます。小学生と中学生の子どもと暮らしておりますが、周りは子どもがだんだん減り、地域の祭りや子どもの行事にも大きく支障をもたらしており、保護者や子どもの負担が大きくなっている現状です。子ども会、PTAの活動も、だんだん縮小され、さみしさを感じています。都会とは違った田舎ならではの伝統や、文化は作手の良さだと思うので、大切に受け継いで残していかなければならないと考えます。</p> <p>そんな中、地域協議会で作手の課題や、地域が元気になるように協議されていることを知りました。作手では、つくでっ子元気事業で、共育の日の人形劇での公演、作手こども園の駐車場整備等、さまざまな所で自治区予算が使われており、今後も、若い方や、女性の意見を反映させて欲しいと願っております。</p> <p>私もそうですが、若い方がもっと地域のことを考え、興味を持つようになれば、もっと、よりよい新城になると考えます。</p> <p>若い方は、まだまだ、地域協議会のしくみを知らない人がいるかもしれません。地域活動交付金も、知らないかもしれません。若い方や、女性を対象に、勉強会や話し合う場など、交流を持てたらいい刺激となり、発展するのではないかとの思いから、次の質問をします。</p>
質 問	<p>(1) 地域協議会の委員の女性の割合はどのくらいでしょうか。</p> <p>(2) 地域協議会では、委員以外の意見等を吸い上げるように何か行っていますか。</p> <p>(3) 「協議会だより」を発行して市民に周知していますが、各家庭に配布だけでなく、市民が良く目にするところ等、作手地区では、Aコープ等に掲示するなど、地域協議会で決定したこと等、周知する方法を増やす考えはありますか。</p>